

仕事人秘録

就職活動の時期を迎え、接客業を中心に会社訪問を始めた。

大学3年生で米国を旅行した際に「旅行関係の仕事が面白そうだ」と思い、その方面で就職活動を進めることにしました。自分としてはコミュニケーション能力が備わっているという自信もあったからです。大手旅行会社や有名ホテルなど受けました。

ところが、ある大手ホテルの役員面接で「香港で一番有名なホテルはどこですか」と聞かれて答えに窮している。「じゃあ、シンガポールで有名なホテルは」と繰り返してきました。やはり残念ながら答えることができません。面接官は「君、本当にホテルで働きた

行列のできる経営相談所 ⑤

富士市産業支援センター長

小出 宗昭氏



静岡銀行に入って最初に配属されたのは横浜支店だった

「銀行も接客業」で内定

ました。後で知ったことで、すが質問したのは副頭取で互に交換して受取額と支払額の差額を決済します。しかし、私の集計作業が遅く、そこにいる金融機関の皆さんにご迷惑をかけてしまいました。

まあ、そんな変わったところが評価されたのでしようか。内定をいただきました。両親に報告すると「よかったね。静岡さんに入れた」と大喜びです。自分としては筋を曲げたつもりはなく、接客業としての銀行にお世話になることを決めました。少しは親孝行にな

いの」とあきれていましたね。確かに業界研究をそれほどしていませんでした。

それでもなんとか旅行会社から内定をもらって両親に伝えると、「長男だから社から内定をもらって両親に伝えると、

地元の静岡の会社も受けてみてはどうか」と勧められ

たのです。両親には散々迷惑を掛けてきたので、あまり乗り気はしなかったのですが地元

ったのかな。

足手まといな新人時代の。でもそれが縁で将来の伴侶と出会うことにな

る。

最初に赴任したのは横浜支店です。新人時代の思い出としては手形交換所での出来事があります。朝、交換所に出向く仕事は本当に難儀しました。手形類を各金融機関が持ち寄り、お互

ち込んでいるはずなのに打ち間違いがあつて数字が合

いません。その繰り返しで

す。

この時にいつも助け舟を出してくれたのが同じ支店の女性の先輩です。とても面倒見がよく、テキパキと仕事をしていました。お世話になりました。話になりっぱなしだったこの女性が後に私の妻となる